

人権作文「自分のためにできること」から

自分のためにできること

丹原東中学校 二年 青野 莉子

あなたは、自分の周りにはいじめや差別が全くないと言い切れますか。また、自分には差別心が全くないと言い切れますか。

今、世の中にはいろいろないじめや差別があります。障がい者差別、人種差別、高齢者差別、部落差別、性的マイノリティの人への差別などです。そして、そのいじめや差別は私たちの身近に潜んでいます。でも、多くの人は自分の周りにはないと、いじめや差別を遠くのものとして見ています。私も人権について学習するまでは、いじめや差別を遠くにあるものと感じていました。

でも、丹原東中学校に入学して、人権について深く学んでいくうちに考え方が変わりました。丹原東中学校は、性的マイノリティについて他の学校より詳しく学習しています。私が特に印象に残っているのは、田中一歩さんの講演会です。一歩さんは、トランスジェンダーという、体の性と心の性が一致しない人です。私はそれまで性的マイノリティについて学習していましたが、実際にマイノリティの方から直接お話を聞くのは初めてでした。私が、一歩さんのお話の中で特に心に残ったのは、「一人じゃないよ。自分でいいんだよ。」という言葉です。私は、この言葉を聞いて、自分も周りと違っているのが怖くて周りと意見を合わせていることがあると思いましたが、でも、一歩さんのお話を聞いて、自分

らしく生きることが一番大切だと考えるようになってから、自分の意見を進んで発表することができるようになりました。そして、私がかうであったように、私の周りにも、内容は違っても、人と違うことで悩んでいる人がいるのではないかと考えるようになりました。改めて自分の今までの行動を振り返ると、相手を傷付けるような行動をしまつたことが何度もあることに気付かされました。だからこそ、人権について、もっと学習する必要があると考えました。

そこで、私は地区別人権・同和教育懇談会に参加することにしました。地区別人権・同和教育懇談会とは、地域の人が人権について意見を交換し、学習する会です。その会で話し合っていく中で、特に私が印象に残ったのは、「いじめや差別はもうなくなっているのだから、学ぶ必要はない。」という地域の人の意見でした。私はこの意見を聞いて、世の中にはもういじめや差別がなくなっていると勘違いしている大人がいることに驚きました。そして、勇気を出して「いじめや差別をなくすためには、何よりもまずきちんと知ることが重要だと思う。」と私なりの考えを話しました。私たちはいじめや差別についてこ



れからも学び続け、正しい知識を増やし、周りに差別・偏見がないように、人権感覚を磨く積み重ねをしなくてはなりません。

今、新型コロナウイルス感染者に対する差別がニュースに大きく取り上げられています。あなたは、この差別を自分の問題として見ていますか。もし明日、あなたやあなたの家族が新型コロナウイルスに感染して差別されたら、あなたはどのような気持ちになりますか。人種差別や障がい者への差別など、あらゆる差別と同じで、自分がなりたくて病気になつたわけではありません。一人一人が正しい知識を持ち、相手の立場を想像することができれば、差別はなくなると思います。

人権を大切にすることは、誰かを幸せにするものであると同時に、自分や家族が幸せになるためのものでもあります。一人一人が自分や家族の幸せのために人権について学び続けていくと、誰もが笑顔あふれる楽しい世界になると、私は考えます。だから、私はこれから地区別人権・同和教育懇談会への参加など、自分にできることを精一杯行い、幸せな人生を送りたいです。

(令和2年度

人権意識を高めるための作品集」から)